



令和 4 年 11 月 9 日

独立行政法人大学入試センター

令和 7 年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テストの 問題作成の方向性及び試作問題等について

令和 7 年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト（以下「令和 7 年度共通テスト」という。）からは、出題科目や内容等が、平成 30 年 3 月に告示された高等学校学習指導要領に対応した試験へと変わります。

このため、大学入試センターにおいては、各教科・科目に関する専門家等から構成される委員会を設置し、令和 7 年度共通テストの問題作成に関して検討を行ってきました。

この度、大学や高等学校等における令和 7 年度共通テストに向けた検討や準備に資するよう、出題教科・科目の出題方法等（出題範囲、科目選択の方法、試験時間、配点など。これまでに公表済みの内容も含みます。）について予告するとともに、問題作成の方向性及び試作問題等を公表します（公表資料一覧は別紙のとおり）。

大学入試センターでは、今回公表した内容を基に、令和 7 年度共通テストの問題作成や実施に向けた準備を進めるとともに、ウェブサイト受験者向けの情報を掲載するなど、より分かりやすい形での周知に努めてまいります。

（注）令和 5 年 6 月（予定）に文部科学省において令和 7 年度共通テストに係る「実施大綱」が決定された後、大学入試センターにおいて令和 7 年度共通テストの出題教科・科目の「出題方法等」と「問題作成方針」を正式に決定します。今回公表する資料 1 は「出題方法等」の予告に当たります。また、資料 2 及び資料 3 は、「問題作成方針」の決定に先立ち、検討に当たっての基本的な考え方などを公表するものです。

公表資料一覧

資料 1 令和 7 年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テストの出題教科・科目の出題方法等の予告

資料 2 令和 7 年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テストの問題作成方針に関する検討の方向性について

資料 3 令和 7 年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テストの出題教科・科目の問題作成方針に関する検討の方向性について

別添 1 国語 (試作問題の概要, 試作問題, 正解表)

別添 2 地理歴史 (試作問題の概要, 試作問題, 正解表)

別添 3 公民 (試作問題の概要, 試作問題, 正解表)

別添 4 数学 (試作問題の概要, 試作問題, 正解表)

別添 5 英語 (試作問題の概要, 試作問題, 正解表)

別添 6 情報 (試作問題の概要, 試作問題, 正解表)

※ 上記別添 1～6については、大学入試センターのウェブページをご覧ください。
(https://www.dnc.ac.jp/kyotsu/shiken_jouhou/r7ikou/r7houkousei.html)

資料 4 『情報 I』と『旧情報 (仮)』の受験者数が 1 万人未満の場合も得点調整の対象とすることについて

参考資料 令和 7 年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テストに関する検討状況について (令和 4 年 11 月 9 日)

令和 7 年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テストの出題教科・科目の出題方法等の予告

令和 7 年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト（以下「令和 7 年度共通テスト」という。）においては、平成 30 年 3 月に告示された高等学校学習指導要領（以下「平成 30 年告示学習指導要領」という。）が令和 4 年 4 月から年次進行で実施されたことに伴い、平成 30 年告示学習指導要領に基づく試験を実施することになる。

「令和 7 年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テストの出題教科・科目の出題方法等」の内容については、「令和 7 年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト実施大綱の予告」

（令和 3 年 7 月 30 日付け文部科学省高等教育局長通知の別紙 1）及び「令和 7 年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト実施大綱の予告（補遺）」（令和 3 年 9 月 29 日付け文部科学省高等教育局長通知の別紙 1）を踏まえ、以下の 1 から 3 のとおりとする。なお、令和 5 年 6 月（予定）の公表時には、問題冊子や解答用紙の形式等を踏まえ、本予告の表現をより適切なものに変える場合がありうる。

1. 令和 7 年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テストの出題教科・科目の出題方法等について

別表 1 の内容のとおりとする。

なお、令和 7 年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テストの試験時間割（イメージ）を**別紙**のとおり示す。実際の試験時間割は、現在、大学入試センターにおいて検討している。

2. 令和 7 年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト「経過措置科目」の出題方法等について

別表 2 の内容のとおりとする。

3. 経過措置科目を受験できる者について

令和 7 年度共通テストの全ての受験者は、平成 30 年告示学習指導要領に基づく教科・科目の内容による試験を受験するのが原則であるが、「令和 7 年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト実施大綱の予告（補遺）」により、平成 21 年 3 月に告示された高等学校学習指導要領（以下「平成 21 年告示学習指導要領」という。）に基づく教育課程（以下「旧教育課程」という。）を履修した入学志願者など、平成 30 年告示学習指導要領に基づく教育課程を履修していない入学志願者に対しては、経過措置を講じることとされている。

このような経過措置科目の出題の趣旨を踏まえ、別表 2 の経過措置科目を受験できる者は、**別表 3** に示す旧教育課程履修者等のうち希望する者とする。**同表** に示す新教育課程履修者は、経過措置科目を解答することはできない。

令和 7 年度大学入学共通テスト 出題教科・科目の出題方法等（予告）

※ 令和 5 年 6 月（予定）に「令和 7 年度大学入学共通テスト出題教科・科目の出題方法等」を公表する際、問題冊子や解答用紙の形式等を踏まえ、本資料の表現をより適切なものに変える場合がある。

教科 グループ	出 題 科 目	出題方法 (出題範囲、出題科目選択の方法等) 出題範囲について特記がない場合、出題科目名に含まれる学習指導要領の科目の内容を総合した出題範囲とする。	試験時間（配点）
国語	『国 語』	・「現代の国語」及び「言語文化」を出題範囲とし、近代以降の文章及び古典（古文、漢文）を出題する。	90 分(200 点) (注 1)
地理 歴史	『地理総合、地理探究』 『歴史総合、日本史探究』 『歴史総合、世界史探究』→(b) 『公共、倫理』 『公共、政治・経済』	・左記出題科目の 6 科目のうちから最大 2 科目を選択し、解答する。 ・(a)の『地理総合、歴史総合、公共』は、「地理総合」、「歴史総合」及び「公共」の 3 つを出題範囲とし、そのうち 2 つを選択解答する（配点は各 50 点）。 ・2 科目を選択する場合、以下の組合せを選択することはできない。 <u>(b)のうちから 2 科目を選択する場合</u> 『公共、倫理』と『公共、政治・経済』の組合せを選択することはできない。 <u>(b)のうちから 1 科目及び(a)を選択する場合</u> (b)については、(a)で選択解答するものと同一名称を含む科目を選択することはできない。(注 2) ・受験する科目数は出願時に申し出ること。	1 科目選択 60 分(100 点) 2 科目選択 130 分(注 3) (うち解答時間 120 分) (200 点)
公民	『地理総合、歴史総合、公共』→(a) (a): 必修科目を組み合わせ た出題科目 (b): 必修科目と選択科目を 組み合わせた出題科目		
数 学	①『数学Ⅰ、数学A』 『数 学Ⅰ』	・左記出題科目の 2 科目のうちから 1 科目を選択し、解答する。 ・「数学A」については、図形の性質、場合の数と確率の 2 項目に対応した出題とし、全てを解答する。	70 分(100 点)
	②『数学Ⅱ、数学B、数学C』	・「数学B」及び「数学C」については、数列（数学B）、統計的な推測（数学B）、ベクトル（数学C）及び平面上の曲線と複素数平面（数学C）の 4 項目に対応した出題とし、4 項目のうち 3 項目の内容の問題を選択解答する。	70 分(100 点)
理 科	『物理基礎、化学基礎、 生物基礎、地学基礎』 『物 理』 『化 学』 『生 物』 『地 学』	・左記出題科目の 5 科目のうちから最大 2 科目を選択し、解答する。 ・『物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎』は、「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」及び「地学基礎」の 4 つを出題範囲とし、そのうち 2 つを選択解答する（配点は各 50 点）。 ・受験する科目数は出願時に申し出ること。	1 科目選択 60 分(100 点) 2 科目選択 130 分(注 3) (うち解答時間 120 分) (200 点)
外 国 語	『英 語』 『ドイツ語』 『フランス語』 『中 国 語』 『韓 国 語』	・左記出題科目の 5 科目のうちから 1 科目を選択し、解答する。 ・『英語』は「英語コミュニケーションⅠ」、「英語コミュニケーションⅡ」及び「論理・表現Ⅰ」を出題範囲とし、【リーディング】及び【リスニング】を出題する。受験者は、原則としてその両方を受験する。その他の科目については、『英語』に準じる出題範囲とし、【筆記】を出題する。 ・科目選択に当たり、『ドイツ語』、『フランス語』、『中国語』及び『韓国語』の問題冊子の配付を希望する場合は、出願時に申し出ること。	『英語』 【リーディング】 80 分(100 点) 【リスニング】 60 分(注 4) (うち解答時間 30 分) (100 点) 『ドイツ語』『フランス語』『中国語』『韓国語』 【筆記】 80 分(200 点)
情 報	『情 報Ⅰ』		60 分(100 点)

（備考）『 』は大学入学共通テストにおける出題科目を表し、「 」は高等学校学習指導要領上設定されている科目を表す。

(注1) 『国語』の分野別の大問数及び配点は、近代以降の文章が3問110点、古典が2問90点(古文・漢文各45点)とする。

- (注2) 地理歴史及び公民で2科目を選択する受験者が、(b)のうちから1科目及び(a)を選択する場合において、選択可能な組合せは以下のとおり。
- ・(b)のうちから『地理総合、地理探究』を選択する場合、(a)では「歴史総合」及び「公共」の組合せ
 - ・(b)のうちから『歴史総合、日本史探究』又は『歴史総合、世界史探究』を選択する場合、(a)では「地理総合」及び「公共」の組合せ
 - ・(b)のうちから『公共、倫理』又は『公共、政治・経済』を選択する場合、(a)では「地理総合」及び「歴史総合」の組合せ

[参考]地理歴史及び公民において、(b)のうちから1科目及び(a)を選択する場合に選択可能な組合せについて
○：選択可能 ×：選択不可

		(a)		
		「地理総合」 「歴史総合」	「地理総合」 「公共」	「歴史総合」 「公共」
(b)	『地理総合、地理探究』	×	×	○
	『歴史総合、日本史探究』	×	○	×
	『歴史総合、世界史探究』	×	○	×
	『公共、倫理』	○	×	×
	『公共、政治・経済』	○	×	×

(注3) 地理歴史及び公民並びに理科の試験時間において2科目を選択する場合は、解答順に第1解答科目及び第2解答科目に区分し各60分間で解答を行うが、第1解答科目及び第2解答科目の間に答案回収等を行うために必要な時間を加えた時間を試験時間とする。

- (注4) 【リスニング】は、音声問題を用い30分間で解答を行うが、解答開始前に受験者に配付したICプレーヤーの作動確認・音量調節を受験者本人が行うために必要な時間を加えた時間を試験時間とする。
なお、『英語』以外の外国語を受験した場合、【リスニング】を受験することはできない。

(別表2)

令和7年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト
「経過措置科目」の出題方法等（予告）

※ 令和5年6月（予定）に「令和7年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト出題教科・科目の出題方法等」を公表する際、問題冊子や解答用紙の形式等を踏まえ、本資料の表現をより適切なものに変える場合がある。

教科 グループ	新教育課程による 出題科目	旧教育課程履修者等に対する経過措置		
		経過措置科目	出題方法 (出題範囲, 出題科目選択の方法等)	試験時間 (配点)
国語	『国語』	なし	—	—
地理 歴史	『地理総合, 地理探究』 『歴史総合, 日本史探究』 『歴史総合, 世界史探究』 『公共, 倫理』 『公共, 政治・経済』 『地理総合, 歴史総合, 公共』	『旧世界史A』 『旧世界史B』 『旧日本史A』 『旧日本史B』 『旧地理A』 『旧地理B』 『旧現代社会』 『旧倫理』 『旧政治・経済』 『旧倫理, 旧政治・経済』	次のア, イのいずれかを選択し, 解答する。 ア 新教育課程による出題科目の6科目のうちから最大2科目を選択し, 解答する。選択できない組合せについては別表1を参照のこと。 イ 経過措置科目の10科目のうちから最大2科目を選択し, 解答する。ただし, 同一名称を含む科目の組合せで2科目を選択することはできない。(注1) 新教育課程による出題科目と経過措置科目を組み合わせて選択することはできない。 なお, ア, イのいずれを選択するか及び受験する科目数については出願時に申し出ること。	1科目選択 60分(100点) 2科目選択 130分 (うち解答時間 120分) (200点)
公民				
数 学	①『数学Ⅰ, 数学A』 『数学Ⅰ』	『旧数学Ⅰ』 『旧数学Ⅰ・旧数学A』	新教育課程による出題科目と経過措置科目を合わせた4科目のうちから1科目を選択し, 解答する。	70分(100点)
	②『数学Ⅱ, 数学B, 数学C』	『旧数学Ⅱ』 『旧数学Ⅱ・旧数学B』 『旧簿記・会計』 『旧情報関係基礎』	新教育課程による出題科目と経過措置科目を合わせた5科目のうちから1科目を選択し, 解答する。 なお, 科目選択に当たり, 『旧簿記・会計』及び『旧情報関係基礎』の問題冊子の配付を希望する場合は, 出願時に申し出ること。	70分(100点) (注2)
理 科	『物理基礎, 化学基礎, 生物基礎, 地学基礎』 『物理』 『化学』 『生物』 『地学』	なし	新教育課程による出題科目において, 必要に応じて, 旧教育課程履修者等が選択可能な問題を出題する場合がある。	—
外 国 語	『英語』 『ドイツ語』 『フランス語』 『中国語』 『韓国語』	なし	—	—
情 報	『情報Ⅰ』	『旧情報(仮)』	新教育課程による出題科目と経過措置科目を合わせた2科目のうちから1科目を選択し, 解答する。 『旧情報(仮)』の出題範囲は, 平成21年告示学習指導要領の「社会と情報」及び「情報の科学」の内容とする。なお, 高等学校等において「社会と情報」, 「情報の科学」のいずれの科目を履修していても不利益が生じないよう, 両科目の共通部分に対応した必答問題に加え, 「社会と情報」に対応した問題及び「情報の科学」に対応した問題を出題し, 選択解答させる。	60分(100点)

(備考) 『 』は大学入学共通テストにおける出題科目を表し, 「 」は高等学校学習指導要領上設定されている科目を表す。

- (注1) 「同一名称を含む科目の組合せ」とは、『旧世界史A』と『旧世界史B』，『旧日本史A』と『旧日本史B』，『旧地理A』と『旧地理B』，『旧倫理』と『旧倫理，旧政治・経済』及び『旧政治・経済』と『旧倫理，旧政治・経済』の組合せをいう。
- (注2) 令和6年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テストにおいては，数学②の試験時間は60分であるが，令和7年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テストにおいては，数学②の試験時間は経過措置科目も含めて70分である。

令和 7 年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テストにおける
新教育課程履修者と旧教育課程履修者等の定義

新教育課程履修者	① 高等学校（特別支援学校の高等部を含む。以下同じ。）に令和 4 年 4 月以降に入学し，平成30年告示学習指導要領に基づく教育課程の下で学び，令和 7 年 3 月に卒業見込みの者 ② 中等教育学校の後期課程に令和 4 年 4 月以降に進級し，平成30年告示学習指導要領に基づく教育課程の下で学び，令和 7 年 3 月卒業見込みの者
旧教育課程履修者等	上記以外の者 ＊ 高等学校等卒業生，高等学校卒業程度認定試験合格者又は合格見込者，大学入学資格検定合格者，高等専門学校第 3 学年修了者又は修了見込者，高等専修学校（文部科学大臣に指定された高等専修学校に限る。）修了者又は修了見込者，外国の学校等修了者又は修了見込者，在外教育施設修了者又は修了見込者，及び高等学校等を令和 7 年 3 月卒業見込みであるが入学は令和 4 年 3 月以前の者など上記に該当しない者

令和7年度大学入学選抜に係る大学入学共通テストの 試験時間割（イメージ）

令和7年度大学入学共通テストは、理科を一つの試験時間帯、情報を一つの試験時間帯で実施することとしているが、その場合の試験時間割の一つのイメージを以下に示す。

実際の試験時間割は、現在、大学入試センターにおいて検討している。

1 日目		2 日目	
2 科目受験 9:30～11:40 1 科目受験 10:40～11:40	地理歴史 公民	2 科目受験 9:30～11:40 1 科目受験 10:40～11:40	理科
13:00～14:30	国語	13:00～14:10	数学①
15:20～16:40	外国語	15:00～16:10	数学②
17:20～18:20	リスニング	17:00～18:00	情報

受験上の配慮における試験時間延長（1.5倍）の試験終了時刻

1 日目：19:50 2 日目：19:25

令和 7 年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テストの 問題作成方針に関する検討の方向性について

I. 令和 7 年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テストの問題作成方針（令和 5 年 6 月決定予定）については、以下の方向性で検討する。

1. 試験の継続性及び高大接続改革の趣旨を踏まえ、これまでの大学入学共通テストの問題作成方針の考え方を引き続き重視し、かつ、その趣旨がより明確になるようにする。その上で、新しい高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月告示、令和 4 年度高等学校入学者から年次進行で適用。以下「新学習指導要領」という。）と、これまでの大学入学共通テストの実施状況を踏まえた方針とする。
2. 大学入学志願者を対象に、高等学校の段階における基礎的な学習の達成の程度を判定し、大学教育を受けるために必要な能力について把握するという目的の下、各大学が実施する試験等との組合せにより、大学教育を受けるためにふさわしい能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定することに資するよう、以下を基本的な考え方とする。

(1) 大学入学志願者が高等学校教育の成果として身に付けた、知識・技能や思考力・判断力・表現力等を問う問題作成

大学で学修するために共通して必要となる、高等学校の段階において身に付けた基礎的な力を問う問題を作成する。

特に、新学習指導要領において、「主体的・対話的で深い学び」を通して育成することとされている、深い理解を伴った知識の質を問う問題や、知識や技能を活用し思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる問題を重視する。その際、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等を、教科横断的に育成することとされていることについても留意する。

(2) 各教科・科目の特質に応じた学習の過程を重視した問題作成

(1)に示した知識・技能や思考力・判断力・表現力等を適切に評価できるよう、出題科目の特質に応じた学習の過程を重視し、問題の構成や場面設定等を工夫する。

例えば、社会や日常の中から課題を発見し解決方法を構想する場面、資料やデータ等を基に考察する場面、考察したことを整理して表現しようとする場面などを設定することによって、探究的に学んだり協働的に課題に取り組んだりする過程を、問題作成に効果的に取り入れる。

(3) 多様な受験者の学力を適切に評価する試験問題の作成

(2)に示す問題作成の工夫を重視した上で、多様な受験者が十分に力を発揮し、(1)に示す知識・技能や思考力・判断力・表現力等を適切に評価できる問題となるよう、構成や内容、分量、表現等に配慮する。

その際、これまで良質な問題作成を行う中で蓄積した知見や、試験問題の評価・分析の結果を問題作成に生かすようにする。

Ⅱ. 問題作成方針の検討及び実際の問題作成を進めるに当たり、以下の点について留意する。

(高大接続改革への寄与と不断の改善)

1. 上記の方向性の下、継続性・安定性をもって試験問題を作成することを基本としつつ、各年度の試験の実施結果や高大接続改革の進捗状況等を踏まえ、不断の改善を図る。

特に、高等学校においては、新学習指導要領の下での授業改善が進められるとともに、多様な生徒の学習意欲の喚起に向けた取組が進められている^{*1}。また、大学においても、学修者本位の教育への転換、「学び」の質保証の再構築に向けた教育改革が進められている^{*2}。大学入学者選抜も、これらの改革に資するものとなることが求められていることに留意する。

^{*1}「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」令和3年1月中央教育審議会 など

^{*2}「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）」平成30年11月中央教育審議会 など

(受験者や高校教育関係者等への適切な情報発信)

2. 上記の方向性は、従前のおり、学習指導要領に基づき、教科・科目の本質を重視するものであり、受験者が大学進学後や社会生活において必要となる力を身に付けることを目指した学習を重ねていけば、対応できるような試験となるようにするものである。「学習指導要領に基づく」ということは、学習指導要領を逸脱せず、いたずらに難解な問題を作成しないということに加え、高等学校以下の教育が目指しているところと齟齬をきたさないようにし、望ましい影響を与えうる試験にするということでもある。

この趣旨を広く周知し、受験者が十分な準備を行い試験に臨むことができるよう、関係機関・団体などとの連携の下、様々な機会を通して、問題作成方針等に関する情報提供や説明を行う。

令和 7 年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テストの 出題教科・科目の問題作成方針に関する検討の方向性について

大学入学共通テスト（以下「共通テスト」という。）では、全教科共通の問題作成方針及び各教科・科目の問題作成方針を公表し、問題作成を行っている。

平成 30 年 3 月に告示された高等学校学習指導要領（以下「新学習指導要領」という。）に対応した令和 7 年度共通テストの各教科・科目の問題作成方針については、以下に示す方向性を踏まえて、問題作成部会に設置されている教科・科目等別問題作成方針分科会において審議の上、令和 5 年 6 月（予定）に決定、公表する。

【目 次】

「国語」の問題作成方針に関する検討の方向性	2
「地理歴史」の問題作成方針に関する検討の方向性	3
「公民」の問題作成方針に関する検討の方向性	5
「数学」の問題作成方針に関する検討の方向性	7
「理科」の問題作成方針に関する検討の方向性	8
「外国語」の問題作成方針に関する検討の方向性	9
「情報」の問題作成方針に関する検討の方向性	12

（別添）

- 1 試作問題「国語」の概要，試作問題，正解表
- 2 試作問題「地理歴史」の概要，試作問題，正解表
- 3 試作問題「公民」の概要，試作問題，正解表
- 4 試作問題「数学」の概要，試作問題，正解表
- 5 試作問題「英語」の概要，試作問題，正解表
- 6 試作問題「情報」の概要，試作問題，正解表

※ 上記別添 1～6については、大学入試センターのウェブページをご覧ください。
(https://www.dnc.ac.jp/kyotsu/shiken_jouhou/r7ikou/r7houkousei.html)

「国語」の問題作成方針に関する検討の方向性

- これまでの問題作成方針で示してきたことを引き続き重視しつつ、新学習指導要領「現代の国語」、「言語文化」それぞれで育成する資質・能力を、試験問題全体を通じて評価する。

具体的には、新たな大問を追加し、より多様な文章を扱うことで、言葉による記録、要約、説明、論述、話し合い等の言語活動を重視して、目的や場面に応じて必要な情報と情報の関係を的確に理解する力や、様々な文章の内容を把握したり、適切に解釈したりする力等も含め多様な資質・能力を評価できるようにする。

また、各大問では、引き続き、近代以降の文章（論理的な文章や実用的な文章、文学的な文章）、古典（古文、漢文）を題材として、試験時間（90分）との関係に留意しつつ、それぞれの題材の意義や特質を一層生かした出題となるよう工夫する。

→別添 1 に試作問題と概要を掲載

〔参考〕令和 6 年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト問題作成方針
（別添）出題教科・科目の問題作成の方針（抄）

（1）国語

- 言語を手掛かりとしながら、文章から得られた情報を多面的・多角的な視点から解釈したり、目的や場面等に応じて文章を書いたりする力などを求める。近代以降の文章（論理的な文章、文学的な文章、実用的な文章）、古典（古文、漢文）といった題材を対象とし、言語活動の過程を重視する。問題の作成に当たっては、大問ごとに一つの題材で問題を作成するだけでなく、異なる種類や分野の文章などを組み合わせ、複数の題材による問題を含めて検討する。

「地理歴史」の問題作成方針に関する検討の方向性

(地理総合，歴史総合，公共)

- 『地理総合，歴史総合，公共』では，地理歴史科，公民科の必履修科目（学科等を問わず全ての生徒が卒業までに履修する科目）である３科目に対応した三つを出題範囲として出題する（受験者は，そのうち二つを選択解答する。）。
- 新学習指導要領に示されている，それぞれの科目で育成することとされている資質・能力を一層重視したものとなるよう検討する。

→別添２に試作問題と概要を掲載

(地理（地理総合，地理探究）)

- 『地理総合，地理探究』では，必履修科目である「地理総合」と，その履修後に学習する選択科目である「地理探究」を総合した範囲から出題する。
- 新学習指導要領に示されている「地理総合」及び「地理探究」で育成することとされている資質・能力を一層重視したものとなるよう検討する。

→別添２に試作問題と概要を掲載

(歴史（歴史総合，日本史探究，世界史探究）)

- 『歴史総合，日本史探究』では，必履修科目である「歴史総合」と，その履修後に学習する選択科目である「日本史探究」を総合した範囲から出題する。
- 『歴史総合，世界史探究』では，必履修科目である「歴史総合」と，その履修後に学習する選択科目である「世界史探究」を総合した範囲から出題する。
- 新学習指導要領に示されている「歴史総合」，「日本史探究」及び「世界史探究」で育成することとされている資質・能力を一層重視したものとなるよう検討する。

→別添２に試作問題と概要を掲載

[参考] 令和6年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト問題作成方針
(別添) 出題教科・科目の問題作成の方針(抄)

(2) 地理歴史

(地理(地理A, 地理B))

- 地理に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程を重視する。地理的な見方や考え方を働かせて、地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、地理的な諸課題の解決に向けて構想したりする力を求める。問題の作成に当たっては、思考の過程に重きを置きながら、地域を様々なスケールから捉える問題や、地理的な諸事象に対して知識を基に推論したり、資料を基に検証したりする問題、系統地理と地誌の両分野を関連付けた問題などを含めて検討する。

(歴史(世界史A, 世界史B, 日本史A, 日本史B))

- 歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程を重視する。用語などを含めた個別の事実等に関する知識のみならず、歴史的事象の意味や意義、特色や相互の関連等について、総合的に考察する力を求める。問題の作成に当たっては、事象に関する深い理解に基づいて、例えば、教科書等で扱われていない初見の資料であっても、そこから得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける問題、仮説を立て、資料に基づいて根拠を示したり、検証したりする問題や、歴史の展開を考察したり、時代や地域を超えて特定のテーマについて考察したりする問題などを含めて検討する。

「公民」の問題作成方針に関する検討の方向性

（地理総合，歴史総合，公共）（再掲）

- 『地理総合，歴史総合，公共』では，地理歴史科，公民科の必履修科目（学科等を問わず全ての生徒が卒業までに履修する科目）である３科目に対応した三つを出題範囲として出題する（受験者は，そのうち二つを選択解答する。）。
- 新学習指導要領に示されている，それぞれの科目で育成することとされている資質・能力を一層重視したものとなるよう検討する。

→別添３に試作問題と概要を掲載

（公共，倫理）

- 『公共，倫理』では，必履修科目である「公共」と，その履修後に学習する選択科目である「倫理」を総合した範囲から出題する。
- 新学習指導要領に示されている「公共」及び「倫理」で育成することとされている資質・能力を一層重視したものとなるよう検討する。

→別添３に試作問題と概要を掲載

（公共，政治・経済）

- 『公共，政治・経済』では，必履修科目である「公共」と，その履修後に学習する選択科目である「政治・経済」を総合した範囲から出題する。
- 新学習指導要領に示されている「公共」及び「政治・経済」で育成することとされている資質・能力を一層重視したものとなるよう検討する。

→別添３に試作問題と概要を掲載

〔参考〕令和6年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト問題作成方針
(別添) 出題教科・科目の問題作成の方針(抄)

(3) 公民

(現代社会)

- 現代社会の課題や人間としての在り方生き方等について多面的・多角的に考察する過程を重視する。文章や資料を的確に読み解きながら基礎的・基本的な概念や理論、考え方等を活用して考察する力を求める。問題の作成に当たっては、図や表など、多様な資料を用いて、データに基づいて考察し判断する問題などを含めて検討する。

(倫理)

- 人間としての在り方生き方に関わる倫理的諸課題について多面的・多角的に考察する過程を重視する。文章や資料を読み解きながら、先哲の基本的な考え方等を手掛かりとして考察する力を求める。問題の作成に当たっては、倫理的諸課題について、倫理的な見方や考え方を働かせて、思考したり、批判的に吟味したりする問題や、原典資料等、多様な資料を手掛かりとして様々な立場から考察する問題などを含めて検討する。

(政治・経済)

- 現代における政治、経済、国際関係等について多面的・多角的に考察する過程を重視する。現代における政治、経済、国際関係等の客観的な理解を基礎として、文章や資料を的確に読み解きながら、政治や経済の基本的な概念や理論等を活用して考察する力を求める。問題の作成に当たっては、各種統計など、多様な資料を用いて、様々な立場から考察する問題などを含めて検討する。

(倫理、政治・経済)

- 「倫理」「政治・経済」を総合した出題範囲から、上述の両科目の問題作成の方針を踏まえて問題作成を行う。

「数学」の問題作成方針に関する検討の方向性

- 『数学Ⅰ，数学A』及び『数学Ⅰ』については，選択問題を含まず，全てを解答することとする。
- 『数学Ⅱ，数学B，数学C』については，「数学Ⅱ」は選択問題を含まず，全てを解答することとし，「数学B」及び「数学C」については，4項目のうち3項目の内容の問題を選択解答することとする。従来の『数学Ⅱ・数学B』から出題範囲が増えることに伴い，各大問の分量については，内容と試験時間（70分）を踏まえて調整する。
- これまでの問題作成方針で示されている，「数学的な問題解決の過程」を引き続き重視しつつ，新学習指導要領に示されている，数学の各科目で育成することとされている資質・能力を一層重視したものとなるよう検討する。

→別添4に試作問題と概要を掲載

〔参考〕令和6年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト問題作成方針
(別添) 出題教科・科目の問題作成の方針(抄)

(数学Ⅰ，数学Ⅰ・数学A，数学Ⅱ，数学Ⅱ・数学B)

- 数学的な問題解決の過程を重視する。事象の数量等に着目して数学的な問題を見いだすこと，構想・見通しを立てること，目的に応じて数・式，図，表，グラフなどを活用し，一定の手順に従って数学的に処理すること，及び解決過程を振り返り，得られた結果を意味付けたり，活用したりすることなどを求める。また，問題の作成に当たっては，日常の事象や，数学のよさを実感できる題材，教科書等では扱われていない数学の定理等を既知の知識等を活用しながら導くことのできるような題材等を含めて検討する。

「理科」の問題作成方針に関する検討の方向性

(物理基礎, 化学基礎, 生物基礎, 地学基礎)

- これまでの問題作成方針で示されている,「日常生活や社会との関連を考慮し,科学的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則などの理解と,それらを活用して科学的に探究を進める過程についての理解など」を引き続き重視しつつ,新学習指導要領に示されている,各科目で育成することとされている資質・能力を一層重視したものとなるよう検討する。

(物理, 化学, 生物, 地学)

- これまでの問題作成方針で示されている,「科学の基本的な概念や原理・法則に関する深い理解を基に,基礎を付した科目との関連を考慮しながら,自然の事物・現象の中から本質的な情報を見いだしたり,課題の解決に向けて主体的に考察・推論したりするなど,科学的に探究する過程」を引き続き重視しつつ,新学習指導要領に示されている,各科目で育成することとされている資質・能力を一層重視したものとなるよう検討する。

【参考】 令和6年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト問題作成方針
(別添) 出題教科・科目の問題作成の方針 (抄)

(物理基礎, 化学基礎, 生物基礎, 地学基礎)

- 日常生活や社会との関連を考慮し,科学的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則などの理解と,それらを活用して科学的に探究を進める過程についての理解などを重視する。問題の作成に当たっては,身近な課題等について科学的に探究する問題や,得られたデータを整理する過程などにおいて数学的な手法を用いる問題などを含めて検討する。

(物理, 化学, 生物, 地学)

- 科学の基本的な概念や原理・法則に関する深い理解を基に,基礎を付した科目との関連を考慮しながら,自然の事物・現象の中から本質的な情報を見いだしたり,課題の解決に向けて主体的に考察・推論したりするなど,科学的に探究する過程を重視する。問題の作成に当たっては,受験者にとって既知ではないものも含めた資料等 に示された事物・現象を分析的・総合的に考察する力を問う問題や,観察・実験・調査の結果などを数学的な手法を活用して分析し解釈する力を問う問題などとともに,科学的な事物・現象に係る基本的な概念や原理・法則などの理解を問う問題を含めて検討する。

なお,大学入試センター試験で出題されてきた理科の選択問題については,設定しないこととする。

「外国語」の問題作成方針に関する検討の方向性

（英語）

- 高大接続改革の中で、学習指導要領の趣旨を踏まえ、各大学の個別選抜や総合型選抜等を含む大学入学者選抜全体において、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の総合的な英語力を評価することが求められている。共通テスト「外国語（英語）」は、「リーディング」形式と「リスニング」形式の試験問題を通して、文字や音声による試験の特徴を生かしながら、以下のように可能な限り総合的な英語力を評価する。
- ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解する力を引き続き重視する。
 - ・併せて、高等学校において、英語を「聞くこと」・「読むこと」・「話すこと[やり取り]、[発表]」・「書くこと」を統合した言語活動の充実が図られることを踏まえ、情報や自分の考えを適切に表現したり伝え合ったりするために、理解した情報や考えを整理したり、何をどのように取り上げるかなどを判断したりする力を重視する。
 - ・また、コミュニケーションを支える基盤となる音声や語彙、表現、文法等に関する知識や技能についても、上記の力を問うことを通して引き続き評価する。
- なお、「リーディング」、「リスニング」とともに、共通テストの問題のレベルは、出題範囲としている科目（「英語コミュニケーションⅠ」、「英語コミュニケーションⅡ」及び「論理・表現Ⅰ」）の目標及び内容（言語活動の例、言語の使用場面や働きの例など）等に対応したものとする。その際、多様な受験者の学力を適切に識別できるよう、引き続き、CEFRの概ねA1～B1レベルを目安として問題のテキスト、使用する語彙、タスクなどを設定し、問題を作成することとする。

→別添5に試作問題と概要を掲載

[参考] 令和6年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト問題作成方針
(別添) 出題教科・科目の問題作成の方針(抄)

(6) 外国語

(英語)

- 高等学校学習指導要領では、外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにすることを目標としていることを踏まえて、4技能のうち「読むこと」「聞くこと」の中でこれらの知識が活用できるかを評価する。したがって、発音、アクセント、語句整序などを単独で問う問題は作成しないこととする。
- 「リーディング」「リスニング」とともに、ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)を参考に、各 CEFR レベルにふさわしいテキスト作成と設問設定を行うことで、A1 から B1 レベルに相当する問題を作成する。また、実際のコミュニケーションを想定した明確な目的や場面、状況の設定を重視する。
- 「リーディング」については、様々なテキストから概要や要点を把握する力や必要とする情報を読み取る力等を問うことをねらいとする。表記については、現在国際的に広く使用されているアメリカ英語に加えて、場面設定によってイギリス英語を使用することもある。
- 「リスニング」については、生徒の身近な暮らしや社会での暮らしに関わる内容について、概要や要点を把握する力や必要とする情報を聞き取る力等を問うことをねらいとする。音声については、多様な話者による現代の標準的な英語を使用する。

読み上げ回数については、英語の試行調査の結果や資格・検定試験におけるリスニング試験の一般的な在り方を踏まえ、問題の数の充実を図ることによりテストの信頼性が更に向上することを目的として、1 回読みを含める。十分な読み上げ時間を確保し、重要な情報は形を変えて複数回言及するなど、自然なコミュニケーションに近い英語の問題を含めて検討する。全ての問題を 1 回読みにする可能性についても今後検証しつつ、当面は 1 回読みと 2 回読みの両方の問題を含む構成で実施することとする。
- グローバル人材の育成を目指した英語教育改革の方向性の中で高等学校学習指導要領に示す 4 技能のバランスの良い育成が求められていることを踏まえ、「リーディング」と「リスニング」の配点を均等とする。ただし、各大学の入学者選抜において、具体的にどの技能にどの程度の比重を置くかについては、4 技能を総合的に評価するよう努めるという「大学入学共通テスト実施方針」(平成 29 年 7 月)を踏まえた各大学の判断となる。

(英語以外の外国語)

- 英語以外の外国語については、引き続き【筆記】を出題し、【リスニング】は出題しない。
- 「実際のコミュニケーションを想定した明確な目的や場面、状況の設定」を引き続き重視しつつ、新学習指導要領で示されている、外国語科で育成することとされている資質・能力を一層重視したものとなるよう検討する。

【参考】令和6年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト問題作成方針
(別添) 出題教科・科目の問題作成の方針(抄)

(英語以外の外国語 [ドイツ語, フランス語, 中国語, 韓国語])

- 英語以外の外国語については、大学入試センター試験の枠組みを受け継いだ『筆記』テストを課し、「リスニング」テストは実施しない。
- 教科としての外国語科の目標である「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う」に基づき問題作成を行う。また、実際のコミュニケーションを想定した明確な目的や場面、状況の設定を重視する。
- 問題作成に当たっては、CEFR 等を踏まえた力を問うことをねらいとして作成する。
その際、大学教育の基礎力を踏まえ、また、高等学校において英語以外の外国語を初めて履修する者もいることを考慮し、問題作成を行う。

「情報」の問題作成方針に関する検討の方向性

(情報Ⅰ)

- 新学習指導要領で示されている「情報Ⅰ」で育成を目指すこととされている資質・能力を重視したものとなるよう検討する。
- 今回公表する試作問題は以下の考えの下で作成した。
 - ・ 日常的な事象や社会的な事象と情報との結び付き、情報と情報技術を活用した問題の発見・解決に向けての探究的な活動の過程、及び情報社会と人の関わりを重視する。
 - ・ 社会や身近な生活の中の題材や受験者にとって既知ではないものも含めた資料等に示された事例や事象について、情報社会と人との関わりや情報の科学的な理解を基に考察する力を問う問題などとともに、問題の発見・解決に向けて考察する力を問う問題も含めて検討する。
- 試作問題の中にあるプログラム表記は、授業で多様なプログラミング言語が利用される可能性があることから、受験者が初見でも理解できる大学入試センター独自の日本語でのプログラム表記を用いた。令和7年度試験問題も同様の方向性で検討する。

→別添6に試作問題と概要を掲載

(旧情報(仮))

- 『旧情報(仮)』では、平成21年3月に告示された高等学校学習指導要領における情報科の選択必修科目である二つの科目「社会と情報」及び「情報の科学」に対応した問題を作成する。問題は、二つの科目に共通した必答問題2問とそれぞれの科目に対応した選択問題4問の計6問で構成されており、受験者は、必答問題2問と選択問題2問を選択解答する。
- 今回公表する試作問題は以下の考えの下で作成した。
 - ・ 情報社会と人の関わりや社会の中で情報及び情報技術が果たしている役割や影響、それらを問題解決の場面などで活用するための知識と技能、及び情報に関する科学的な見方や考え方を重視する。
 - ・ 社会や身近な生活の中の題材や受験者にとって既知ではないものも含めた資料等に示された事例や事象について、情報社会と人との関わりや情報に関する科学的な見方や考え方を基に考察する力を問う問題などや、問題の発見・解決に向けて考察する力を問う問題も含めて検討する。
- 試作問題の中にあるプログラム表記は、授業で多様なプログラミング言語が利用される可能性があることから、受験者が初見でも理解できる大学入試センター独自の日本語でのプログラム表記を用いた。令和7年度試験問題も同様の方向性で検討する。

→別添6に試作問題と概要を掲載

『情報Ⅰ』と『旧情報（仮）』の受験者数が1万人未満の場合も 得点調整の対象とすることについて

令和4年11月9日

独立行政法人大学入試センター

得点調整については、従来、受験者数が1万人未満の科目は得点調整の対象としないこととしてきた。しかし、『情報Ⅰ』と『旧情報（仮）』はいずれも令和7年度大学入学共通テストで初めて出題する科目であるなどの事情があるため、これらの科目については、受験者数が1万人未満の場合も得点調整の対象とすることとする。

令和 7 年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト
に関する検討状況について

令和 4 年 11 月 9 日
独立行政法人大学入試センター

※下線部が令和 4 年 11 月 9 日に更新された部分です。

令和 4 年度に高等学校に入学した者から、平成 30 年 3 月に告示された高等学校学習指導要領（以下「新学習指導要領」という。）により学ぶことになります。

このことに対応し、大学入学共通テストも、令和 7 年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト（以下「令和 7 年度共通テスト」という。）は、新学習指導要領に対応した試験となります。

令和 7 年度共通テストについての現在の検討状況は以下のとおりです。

1. 出題科目

出題科目については、「令和 7 年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト実施大綱の予告」（令和 3 年 7 月 30 日付け文部科学省高等教育局長通知）において、別添 1のとおり示されました。

2. 実施期日・試験時間・経過措置

実施期日、試験時間及び現行の教育課程（平成 21 年 3 月告示の高等学校学習指導要領に基づく教育課程）履修者のための経過措置については、「令和 7 年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト実施大綱の予告（補遺）」（令和 3 年 9 月 29 日付け文部科学省高等教育局長通知）において、別添 2のとおり示されました。

3. 出題方法・問題作成方針

令和 7 年度共通テストの出題教科・科目の出題方法等の予告を別添 3（→公表資料の資料 1）のとおり公表しました。また、新学習指導要領を踏まえた各教科・科目の問題作成の方向性について、大学入試センターにおける専門の委員会等で検討し、問題作成方針の方向性及び試作問題等を別添 4・5（→公表資料の資料 2 及び資料 3）のとおり公表しました。

＜教科共通の問題作成方針の検討の方向性のポイント＞

- 従来の方針を基本としつつ、新学習指導要領を踏まえ、趣旨をより明確にする。
 - ・ 新学習指導要領で示している知識の質、思考力・判断力・表現力等を重視するとともに、教科横断的に育成する言語能力、情報活用能力等にも留意する。
 - ・ 各教科の知識・技能や思考力・判断力・表現力等を評価するため、各教科・科目の特質に応じた学習の過程を重視し、問題の構成や場面設定の工夫を重視する。
 - ・ 出題の工夫を一層重視しつつ、多様な受験者が十分に力を発揮できるよう、構成や内容、分量、表現等に配慮する。
- 高校教育や大学教育が変わろうとしていることを踏まえ、共通テストも不断の改善を図る。
- 共通テストは、学習指導要領に基づく学習を重ねていけば対応できる問題を目指すものであり、そのことの周知を含め、広く情報発信を行う。

＜各教科に係る公表内容（出題方法、問題作成の方向性、試作問題等）のポイント＞

国語

言葉による記録、要約、説明、論述、話し合い等の言語活動を重視し、多様な資質・能力を問うことができるよう、大問を1つ追加。配点は近代以降の文章が3問110点、古典が2問90点(古文・漢文各45点)。試験時間(90分)との関係に留意しつつ、それぞれの題材の意義や特質を一層生かした出題となるよう工夫する。

試作問題では、新たな大問の例として、複数の文章や図、グラフを基に、レポートの内容や構成を考える設定の問題を2例紹介。

地理歴史、公民

試作問題では、必修科目を組み合わせた出題科目(『地理総合、歴史総合、公共』)と、必修科目を学習した後に履修する選択科目を組み合わせた出題科目(『地理総合、地理探究』、『歴史総合、日本史探究』、『歴史総合、世界史探究』、『公共、倫理』、『公共、政治・経済』)の構成や内容を紹介。

受験者は、上記出題科目の6科目のうちから最大2科目を選択し、解答する。ただし、2科目を選択する場合、選択不可の組合せがある。

数学

数学①②ともに試験時間が70分となる。試作問題では、『数学Ⅰ、数学A』の「データの分析(外れ値、仮説検定の考え方など)」や「場合の数と確率(期待値など)」、『数学Ⅱ、数学B、数学C』の「統計的な推測(仮説検定の方法など)」や「平面上の曲線と複素数平面」など、新たに出題範囲となる内容の問題例と、それを含めた場合の全体の問題構成のイメージを紹介。

理科

従来の「理科①」,「理科②」を一つの試験時間帯の中で「理科」として実施する。なお、選択できる科目の数や形式については従来どおりである。旧教育課程履修者等のための経過措置科目は設定しないが、必要に応じて、旧教育課程履修者等が選択可能な選択問題を出題する場合がある。

英語

出題形式は「リーディング」形式と「リスニング」形式とし(原則、両方を受験)、文字と音声の特性を生かして、「聞いた情報を整理して自分の考えを話す」、「自分の考えを書くために必要な情報を読む」といった、統合的な言語活動で育てた総合的な英語力を測ることを重視。試作問題では、賛否の意見を書くために複数の資料を読んで主張をまとめ論拠を整理する場面、書いた英文を校正・再編集する場面(以上リーディング)、講義の概要や要点を確認し考えを述べ合う場面(リスニング)を扱った問題の例を紹介。

情報

『情報Ⅰ』の試作問題は、新学習指導要領が示す内容を基に、高等学校で育成される資質・能力をバランスよく問う形となるよう作成。経過措置科目の『旧情報(仮)』は、「社会と情報」及び「情報の科学」の共通問題と、それぞれ固有の内容に対応した選択問題から構成する試作問題を紹介。

令和7年度共通テストの出題教科・科目の出題方法及び問題作成方針については、令和5年6月(予定)に公表します。

4. 得点調整

得点調整の対象教科・科目については、別添6のとおりとします。また、『情報Ⅰ』と『旧情報(仮)』については、別添7(→公表資料の資料4)のとおり、受験者数が1万人未満の場合も得点調整の対象とします。

なお、得点調整の実施方法については、これまでの実施方法が受験者等の間ではおおむね定着していることを踏まえながら、新学習指導要領に対応した試験においても適切な調整方法となるよう検討しており、検討状況について令和4年11月16日を目途に公表し、広く意見を伺う予定です。

5. 今後のスケジュールについて

※【 】内は公表主体

令和4年度中	・大学入学共通テスト利用教科・科目の予告【各大学】
令和5年6月 (予定)	・「令和7年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト実施大綱」の公表【文部科学省】 (予告した出題教科・科目等を含む試験の実施方針) ・「令和7年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト出題教科・科目の出題方法及び問題作成方針」の公表【センター】 (経過措置を含めた出題方法，科目選択の方法などの正式決定)
令和6年6月頃	・「令和7年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト実施要項」の公表【センター】 (出願方法，時間割など)

令和7年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト実施大綱の予告

1. 令和7年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト実施大綱において定める出題教科・科目

教科	グループ	出題科目
国語		『国語』
地理歴史		『地理総合、地理探究』、『歴史総合、日本史探究』、『歴史総合、世界史探究』、『地理総合、歴史総合、公共』
公民		『公共、倫理』、『公共、政治・経済』、『地理総合、歴史総合、公共』（再掲）
数学	①	『数学Ⅰ、数学A』、『数学Ⅰ』
	②	『数学Ⅱ、数学B、数学C』
理科		『物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎』 『物理』、『化学』、『生物』、『地学』
外国語		『英語』、『ドイツ語』、『フランス語』、『中国語』、『韓国語』
情報		『情報Ⅰ』

〔補足〕

(1) 試験形態は、問題冊子及びマークシート式解答用紙を使用し、紙で実施するものとする。
この形態に加え、外国語の『英語』については、ICプレイヤーを使用する試験も実施するものとする。

(2) 地理歴史及び公民については同一の試験時間に実施するものとする。

(3) 数学については、①及び②の出題科目のグループごとに試験時間を分けるものとする。

(4) 入学志願者は各大学の指定に従い、以下のとおり解答するものとする。

1) 地理歴史及び公民については、以下のとおりとする。

ア 上記6出題科目のうちから最大2出題科目を選択。

イ 『地理総合、歴史総合、公共』を選択する場合については、出題範囲（「地理総合」、「歴史総合」、「公共」）のうち、いずれか2科目（「地理総合」及び「歴史総合」、「地理総合」及び「公共」、「歴史総合」及び「公共」）の内容の問題を選択解答。

ウ 2出題科目を選択する場合においては、以下の組合せ以外の出題科目の組合せを選択。（別表参照）

・『公共、倫理』と『公共、政治・経済』の組合せを選択することはできない。

・『地理総合、歴史総合、公共』を選択した者は、選択解答した問題の出題範囲の科目と同一名称を含む科目の組合せを選択することはできない。

2) 数学については、以下のとおりとする。

ア グループ①については、上記2出題科目のうちから1出題科目を選択。

イ グループ②については、『数学Ⅱ、数学B、数学C』の出題範囲のうち、「数学B」及び「数学C」は、「数学B」の2項目の内容（数列、統計的な推測）及び「数学C」の2項目の内容（ベクトル、平面上の曲線と複素数平面）のうち3項目の内容の問題を選択解答。

3)理科については、以下のとおりとする。

ア 上記5出題科目のうちから最大2出題科目を選択。

イ『物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎』を選択する場合には、出題範囲(「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」、「地学基礎」)のうち、いずれか2科目の内容の問題を選択解答。

2. 本通知は、令和5年6月までに発出予定の「令和7年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト実施大綱」において定める出題教科・科目等の予定について周知するものであり、今後の試験実施状況等に応じて変更し得るものであること。

(別表)

地理歴史・公民における出題科目を選択する場合の選択方法について

		『地理総合、 地理探究』	『歴史総合、 日本史探究』	『歴史総合、 世界史探究』	『地理総合、歴史総合、公共』			『公共、 倫理』	『公共、 政治・経済』
					「地理総合」 及び 「歴史総合」	「地理総合」 及び 「公共」	「歴史総合」 及び 「公共」		
『地理総合、 地理探究』			○	○	×	×	○	○	○
『歴史総合、 日本史探究』		○		○	×	○	×	○	○
『歴史総合、 世界史探究』		○	○		×	○	×	○	○
『地理総合、 歴史総合、 公共』	「地理総合」 及び 「歴史総合」	×	×	×				○	○
	「地理総合」 及び 「公共」	×	○	○				×	×
	「歴史総合」 及び 「公共」	○	×	×				×	×
『公共、倫理』		○	○	○	○	×	×		×
『公共、政治・経済』		○	○	○	○	×	×	×	

※上記6出題科目のうちから2出題科目を選択する場合は、「○」の組合せから選択でき、「×

令和7年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト実施大綱の予告（補遺）

1. 実施期日等

令和7年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テストは、2日間で実施するものとする。

なお、具体的な実施期日については、令和5年6月初旬までに通知を予定している「令和7年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト実施大綱」において定めることとする。

2. 出題教科・科目の試験時間

地理歴史、公民、数学①（『数学Ⅰ、数学A』、『数学Ⅰ』）、理科及び外国語の試験時間は、「令和5年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト実施大綱」（令和3年6月4日付け3文科高第285号文部科学省高等教育局長通知）に定める試験時間と同様とする。

国語、数学②（『数学Ⅱ、数学B、数学C』）及び情報の試験時間については、以下のとおりとする。

(1) 国語：現在測定している内容を維持した上で多様な文章を提示する観点から、90分とする。

(2) 数学②：出題範囲が「数学Ⅱ」、「数学B」及び「数学C」となり、選択解答する項目数が2から3へ増加するため、70分とする。

(3) 情報：出題範囲や他教科の試験時間等を考慮し、60分とする。

以上を踏まえ、各教科・科目の試験時間は次のとおりとする。

教科	グループ	出題科目	試験時間
国語		『国語』	90分
地理歴史		『地理総合、地理探究』、『歴史総合、日本史探究』、『歴史総合、世界史探究』、『地理総合、歴史総合、公共』	1科目選択 60分 2科目選択 130分 (うち解答時間 120分)
公民		『公共、倫理』、『公共、政治・経済』、『地理総合、歴史総合、公共』(再掲)	
数学	①	『数学Ⅰ、数学A』、『数学Ⅰ』	70分
	②	『数学Ⅱ、数学B、数学C』	70分
理科		『物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎』 『物理』、『化学』、『生物』、『地学』	1科目選択 60分 2科目選択 130分 (うち解答時間 120分)
外国語		『英語』、『ドイツ語』、『フランス語』、『中国語』、『韓国語』 ※『英語』については、ICプレーヤーを使用する試験も実施。	80分 【ICプレーヤーを使用する試験】 60分 (うち解答時間 30分)
情報		『情報Ⅰ』	60分

3. 現行の教育課程履修者への経過措置

現行の教育課程(平成 21 年3月告示の高等学校学習指導要領に基づく教育課程)を履修した入学志願者に対しては、次のとおり経過措置科目を出題することとし、その詳細については、大学入試センターにおいて定めるものとする。

教 科	グループ	経過措置科目	試験時間
地理歴史		『旧世界史A』、『旧世界史B』、 『旧日本史A』、『旧日本史B』、 『旧地理A』、『旧地理B』	1科目選択 60 分 2科目選択 130 分 (うち解答時間 120 分)
公 民		『旧現代社会』、『旧倫理』、『旧政治・経済』、 『旧倫理、旧政治・経済』	
数 学	①	『旧数学Ⅰ』、『旧数学Ⅰ・旧数学A』	70 分
	②	『旧数学Ⅱ・旧数学B』、『旧数学Ⅱ』、『旧簿記・ 会計』、『旧情報関係基礎』	70 分

新たな出題科目『情報Ⅰ』については、現行の教育課程における選択必修科目「社会と情報」「情報の科学」に対応する経過措置を講じることとする。経過措置科目を出題するか、『情報Ⅰ』の試験問題の中に選択解答できる問題を出題するかは、今後、大学入試センターにおいて検討する。

また、理科については、新教育課程(平成 30 年3月告示の高等学校学習指導要領に基づく教育課程)及び現行の教育課程の間で、学習指導要領及び教科書において扱いが異なる内容に関しては、必要に応じて、現行の教育課程履修者が選択解答可能な問題を出題する場合がある。

別添 3 ・ 別添 4 ・ 別添 5 省略

別添 3 : 公表資料の資料 1

別添 4 : 公表資料の資料 2

別添 5 : 公表資料の資料 3

令和 7 年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テストにおける
得点調整の対象教科・科目について

令和 3 年 12 月 17 日
独立行政法人大学入試センター

令和 7 年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト（以下「令和 7 年度共通テスト」という。）における得点調整の対象教科・科目は、別紙の考え方にに基づき、以下のとおりとする（別表参照）。

- (1) 地理歴史の『地理総合，地理探究』，『歴史総合，日本史探究』，『歴史総合，世界史探究』，『旧世界史 B』，『旧日本史 B』，『旧地理 B』の間
- (2) 公民の『公共，倫理』，『公共，政治・経済』，『旧現代社会』，『旧倫理』，『旧政治・経済』，『旧倫理，旧政治・経済』の間
- (3) 数学のグループ①の『数学 I，数学 A』と『旧数学 I・旧数学 A』の間
- (4) 数学のグループ②の『数学 II，数学 B，数学 C』と『旧数学 II・旧数学 B』の間
- (5) 理科の『物理』，『化学』，『生物』，『地学』の間
- (6) 情報の『情報 I』と『旧情報（仮）』の間

（注 1） 得点調整を実施する場合の条件や方法については，別途定める。

（注 2） 現行の大学入学共通テスト（平成 21 年 3 月告示の高等学校学習指導要領に対応した大学入学共通テスト）では，『倫理，政治・経済』を得点調整の対象に含めていないが，令和 7 年度共通テストにおいては『旧倫理，旧政治・経済』を得点調整の対象科目とする。

(別表)

令和7年度共通テストにおける得点調整対象科目について

※ 黒枠で囲っている科目が得点調整対象科目である。

	現行の試験	令和7年度試験	
		経過措置科目	新教育課程科目
国語	『国語』	—	『国語』
地理 歴史	『世界史B』 『日本史B』 『地理B』 『世界史A』 『日本史A』 『地理A』	『旧世界史B』 『旧日本史B』 『旧地理B』 『旧世界史A』 『旧日本史A』 『旧地理A』	『地理総合，地理探究』 『歴史総合，日本史探究』 『歴史総合，世界史探究』 『地理総合，歴史総合，公共』
公民	『現代社会』 『倫理』 『政治・経済』 『倫理，政治・経済』	『旧現代社会』 『旧倫理』 『旧政治・経済』 『旧倫理，旧政治・経済』	『公共，倫理』 『公共，政治・経済』 『地理総合，歴史総合，公共』
数学 ①	『数学Ⅰ・数学A』 『数学Ⅰ』	『旧数学Ⅰ・旧数学A』 『旧数学Ⅰ』	『数学Ⅰ，数学A』 『数学Ⅰ』
数学 ②	『数学Ⅱ』 『数学Ⅱ・数学B』 『簿記・会計』 『情報関係基礎』	『旧数学Ⅱ』 『旧数学Ⅱ・旧数学B』 『旧簿記・会計』 『旧情報関係基礎』	『数学Ⅱ，数学B，数学C』
理科	『物理基礎』『化学基礎』 『生物基礎』『地学基礎』 『物理』 『化学』 『生物』 『地学』	—	『物理基礎，化学基礎， 生物基礎，地学基礎』 『物理』 『化学』 『生物』 『地学』
外国語	『英語』 『ドイツ語』 『フランス語』 『中国語』 『韓国語』	—	『英語』 『ドイツ語』 『フランス語』 『中国語』 『韓国語』
情報	—	『旧情報（仮）』	『情報Ⅰ』

令和7年度共通テストにおける得点調整の対象教科・科目の考え方

1. これまでのセンター試験及び共通テストにおける科目選択及び得点調整

- 大学入試センター試験（以下「センター試験」という。）及び大学入学共通テスト（以下「共通テスト」という。）においては、これらの試験を利用する各大学に対し、受験者の得点を、正答した設問に割り振られた配点を足し上げた素点で提供することを前提に、試験問題の作成及び答案の採点を行ってきた。

このような試験においては、実施結果により各受験者の素点を調整することはできるだけ行わないようにすべきであり、大学入試センターは、各教科・科目間に著しい平均点差が生じないように、試験問題の作成・点検の段階でできる限りの努力を払うことを基本として、試験問題を作成してきた。

- センター試験及び共通テストは 50 万人を超える多様な受験者が受験してきた。高等学校の段階における基礎的な学習の達成の程度を判定し、大学教育を受けるために必要な能力を把握するという目的の下、学習指導要領の教科・科目構成や大学の要請に基づき、かつ多様な受験者の受験を可能とするよう、教科によっては複数の科目を出題し、受験者が受験科目を選択することとしてきた。また、出題内容については、不断の改善を図る必要がある。

受験者が、大学進学後の必要性や関心等に応じて科目選択をできるようにするためにも、また科目選択をめぐる不公平感や混乱等を避けるためにも、各科目間で平均点に大きな差が生じないことが重要である。しかしながら、上記のような共通テストの実施形式では、各科目の平均点を毎年度均一にすることには限界がある。

- これまでのセンター試験及び共通テストにおいても、同一教科内の科目間で、ある程度の平均点差が生じることは許容されてきた。しかしながら、同一教科内の科目間で極端な平均点差（20 点差以上）が生じた際には、社会的な批判を受けたこともあった。

このような同一教科の科目間の試験問題の平均点差による不公平感や混乱等を緩和するため、対象科目間で 20 点差以上の平均点差が生じ、それが試験問題の難易差に基づくものと認められる場合に、得点調整を行ってきたものである。

2. 令和7年度共通テストにおける得点調整の対象教科・科目

- 令和7年度共通テストにおける得点調整の対象教科・科目を検討するに当たっても、1. で述べたこれまでの得点調整の基本的な目的を引き継ぐべきと考えられる。すなわち、教育課程上の各科目の位置付けを踏まえた上で、同一教科の選択科目のうち、試験問題の難易差により平均点差が大きく開くことで、合否等に多大な影響を及ぼすことが予想される科目間は、従来どおり得点調整の対象とすることが必要と考える。

- また、令和7年度共通テストにおいて経過措置科目を出題する教科（地理歴史、公民、数学①、数学②、情報）についても、新教育課程科目と経過措置科目との間で、試験問題の難易差により平均点差が大きく開くことで、合否等に多大な影響を及ぼし、新教育課程履修者と現行の教育課程履修者との間で不公平感や混乱等が生じるおそれがある科目間は、得点調整の対象とすることが必要と考える。

別添 7 省略

別添 7 : 公表資料の資料 4